

Masahiro Sayama 50th anniversary

佐山雅弘 plays ゴールドベルク

演奏曲目

第1部＝組曲1番 In the Velvet～Matador (佐山雅弘) / 組曲2番 Desperation～Dream a While (佐山雅弘)

第2部＝ゴールドベルク変奏曲 BWV 988 (J.S.バッハ)



2003年11月26日(水) | 東京文化会館小ホール

開演 19:00(開場 18:30) | (JR上野駅公園口前)

料金＝5,000円(全席指定) 前売開始＝9月6日(土) 主催・お問合せ＝東京音協 03-3201-8116 協力＝ビクターエンタテインメント株式会社

チケット取扱い＝東京文化会館チケットセンター 03-5815-5452 東京音協 03-3201-8116 チケットぴあ 0570-02-9990
e+(イープラス) <http://eee.eplus.co.jp> ローソンチケット 0570-06-3003(Lコード32900) CNプレイガイド 03-5802-9990

佐山雅弘 plays ゴールドベルク



■SAYAMAの軌跡【佐山はどうやって今まで生きてきたのか】

1953年11月26日、兵庫県尼崎市に茶小売商長男として生まれた佐山雅弘は、小学1年の時、同級生であるこんやく屋の貴子ちゃんと一緒にいたい一心でピアノ教室へ通い始める。中学2年の時、『グレンミラー物語』を見てジャズに目覚め、その直後、叔父に連れられて行ったオスカー・ピーターソンのコンサートに感動。帰りに買ってもらった『We Get Request』を朝昼晩3年間聴く。それから時は流れ、大学を留年してプロのジャズ・ピアニストになった佐山が、音楽を一生の仕事にしようと心の底から決意したのは28歳の時。その頃、出会ったのがグレン・ゲルドの演奏するパッハの『ゴールドベルク変奏曲』。自分がジャズに求めているものがここにあると感じる。さらに時は流れ、日本を代表するジャズ・ピアニストの一人になった佐山は、2003年11月26日、50歳の誕生日に『ゴールドベルク変奏曲』を弾く。

■SAYAMAの想い【どうして今、僕はゴールドベルクを弾くのか】

ジャズとはアドリブの音楽である。アドリブとは何かというと“聞こえた音を弾く”ということに尽きる。それは“その場その時にもっとも良きものを提供する”につながり、その一瞬の連続が振り返ってみれば見事な軌跡になっているのが例えばキース・ジャレットのインプロビゼーションだろう。だが、心を空白にして聴こえる音が、あらかじめ作曲家が用意した理想の一音と一致した場合はどうなる？そう、それがはくにとって、クラシックをはじめとする“書かれた音”の理想形なのだ。書かれた音にジャズを見る。28歳の頃からの愛聴曲、ゲルドの『ゴールドベルク』もしかり。全ての声部が、あたかも“今、こう動きたい！”とでも言うように活き活きと自由に流れているような有り様がゲルドそしてパッハにはあり、書かれたものとそうでないものの差を超越して究極のジャズを自分は感じていたのだ、との解釈にたどり着いたのは、つい3～4年前のことである。遅い。

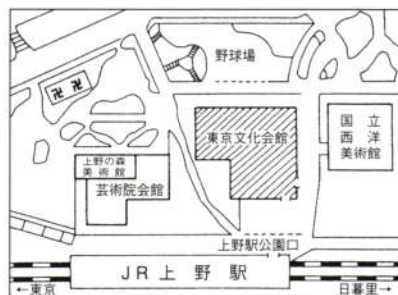
ピアノ少年の憧憬と30年のジャズ経験が絡み合ってどんな音になるのか。このコンサートをする事でその後どこに行くのか。把握できないながらも自分の潜在が体を突き動かしている実感だけはある。そしてそれは充分、行為に値する動機だと、僕は思う。

■SAYAMAの横顔【佐山はどんな仕事をしているのか】

1982年サウンドデザインレコードより『Sbatotto』でアルバムデビュー。1984年ビクターJVCに移籍、『Play Me A Little Music』を発表以来、最新作の『M's 2nd』までリーダーアルバム10枚。一方、1994年からはPONTA BOXの一員として同じくビクターJVCからベスト盤を含む10作品を発表。コンサート、テレビ、ミュージカル等の音楽監督歴も豊富で、2000年に起ち上げたビクター3viewsレーベルの主幹プロデューサーでもある。

現在の主な活動としては、次のものがある。

- 自作中心のソロピアノ
- スタンダード中心のジャズピアノトリオ / M's (マサちゃんズ) 小井政都志 (b) 大坂昌彦 (ds)
- 小原孝とのピアノデュオ (クラシック～ジャズ)
- 松田昌 (エレクーン) とのデュオ、あるいはアンサンブル (インストゥルメンタルポップス)
- 瀬木貴将 (ケーナ、サンボニーヤ) とのデュオ、あるいはバンド
Nature World ネイチャーワールド (エスニックポップス)
- 伊太地山伝兵衛 (シンガーソングライター) にストリングスカルテットを配した伊太地山弦楽団 (Jポップ)
- 小島良喜とのピアノデュオ / four hands groove (ファンク～ジャズ)
- 村上“ポンタ”秀一とのバンド / PONTA BOX (ジャズ)
- ピアノと朗読のコラボレーション / ジャズ絵本 能祖将夫 (朗読)
- ピアノ、朗読、マイム、芝居のコラボレーション / 月猫えほん音楽会
能祖将夫 (朗読) 本多愛也 (マイム) 波多雅子 (芝居) 吉澤耕一 (演出)



【東京文化会館案内図】

JR上野駅公園口より徒歩1分



M's 2nd / M's フィーチャリング 佐山雅弘

VICJ-61140 ¥3,150 (税込) 2003年8月21日

M's (マサちゃんズ)
佐山雅弘 (ap)
小井政都志 (b)
大坂昌彦 (ds)

【収録曲】

枯葉
ブルー・イン・グリーン
リトル・ガール・ブルー
煙が目にしみる
ドント・レット・ミー・ダウン
マイ・フェイヴァリット・シングス
ソーラー 他、全12曲収録

佐山雅弘 (p)、小井政都志 (b)、大坂昌彦 (ds) による新世代スーパージャズ・トリオの第2弾!!

好評を博した前作に続きジャズ・スタンダード・ナンバー中心にオリジナル曲も取り入れた作品。3人だけが紡ぎだせる息の合ったバンド・サウンドはストリート・アヘッドでありながら親しみやすくジャズ・ファンのみならず、すべての音楽ファンを魅了する。